

Rich ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第107号

ななえ古写真物語

VOL. 107

町章の謎

古写真に残された紋章

大正11年

本町地区



以前、町役場から町章の意味と由来についてたずねられたことがあった。この時は、「七つの輪は、緑色で豊かさ、各集落が円く、かたく団結して、末永く発展することを象徴している」という町史に掲載されている理由と、町章としては、昭和52年11月3日に七飯町民憲章とともに制定されたことを伝えた。これは、七飯町開基100年の節目を迎えるにあたり正式に制定されたもので、あわせて七飯町歌も作られている。

しかし、この町章について、実は気になる写真があった。それが上に掲げた写真である。

大勢の人が集まっているこの写真は、明治40年から大正11年まで、七飯村長を務めた木村広凱（ひろよし）村長の村葬の様子である。掲げられている幟をみると、「故七飯村長」の文字があるので、おそらく在任中に急逝されたのだろう。葬儀は村役場庁舎で行われ、多くの村民がその死を嘆いた。

しかし、注目すべきは、庁舎前に置かれた白い幕（幔幕）に描かれている紋章である。そこには、見覚えのある7つの輪が描かれているのだ。ということは、町章のデザインは昭和よりも前にさかのぼることになる。

大正11年の写真に、町章と同じマークが描かれているということは、新たに考案されたものでないことは明白である。意外にもその答えは、七飯町史に記されていた。同じ写真を中扉の口絵に使用し「村章のある幔幕を張り、庁舎で行われた故、木村広凱村長の葬儀」という解説が添えられていたのだ。このことから、町章は、もともと使われていた「七飯村章」を引き継いだものであることがわかった。

ここで問題となるのは「では、村章はいつ作られたのか？」である。遠い記憶に「町章の7つの輪のうち、外側の6つは、合併前の各村をあらわし、それらを中央の輪でつなぐことで、各村が固く結束していることを表わしている」という説明を聞いたことがあった。その言葉から類推すると、明治35年に北海道に二級町村制が施行された時がキーとなる。この時、戸長役場が七飯村にあったため、村名はそのまま「七飯村」としたが、大字としては七飯村・大中山村・鶴野村・藤城村・峠下村・軍川村の6つの集落が一つになったからである。裏付ける書類がないため、仮定の話しになるが、村章の始まりはこの頃なのかもしれない。いずれにせよ、文字記録の大切さを痛感した1枚である。

12日

当館友の会の皆さんが野草園の整備をして下さいました。寒風の吹く中、第1～第3まである野草園の落ち葉を拾ったり、枝の剪定をしたりと細かな作業を皆さんの力できれいにして頂きました。

野草園は、四季折々に様々な木々や花を楽しむことができる場所です。

道行く人が足を止め、写真を撮ったり、安らいでいただくには、こうした友の会の御尽力があってこそ。本当にありがとうございました。



29・30日

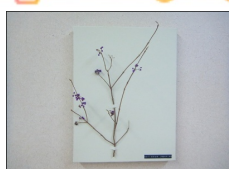
2日間に渡り、歴史館は町民文化祭第2会場として、賑わいました。1日目はジュニア探検クラブが参加し、昔の遊びやおやつ等を体験。見ていると簡単そうなものも、実際に作ってみると、意外に難しいもの。せんべい焼きは、タネ作りから始まり、焼きあがるまでの数分間外でじっと待ちます。子供達や町内外の来館者に丁寧に対応して下さいました実行委員会の皆さんありがとうございました。

フレッシュな学習室を目指してます！

学習室は専門書から歴史に関するマンガまで、様々な蔵書を取りそろえている場所です。

この春からより利用しやすい環境作りをと、季節に合わせたレイアウトやテーマに沿った本に紹介文を添えて、置いています。

装丁がきれいなものは表紙を見せたり、他にも安らぎの時間にお手伝いしたく、壁に木の枝を飾ったものを掛けたり、木の実を詰めたビンに机に置いたり。本以外にも何か心にヒントを与えるような、そんな空間に。云わば本を介した新たな展示室を目指し、これからも創意工夫を重ねていきます。



12月の予定

1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水 夜の博物館
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火
21	水
22	木
23	金 天皇誕生日
24	土 ジュニア探検クラブ
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金
31	土 年末年始休館日

※12月31日～1月5日は休館です。

鉱石

ロビー展示では、実体顕微鏡を使い、鉱石を観察できるコーナーを設けています。色や形から想像して、実際にレンズを覗くと、意外に違う世界を見ることが出来ます。



編集後記 ～tawagoto～

ついに雪が降りました。例年よりも早い冬の到来でしたが、タイミング悪くその後、外作業の予定が詰まっていました。そこで、はじめて足裏に貼るカイロとやらを試してみることに。すると、私の想像以上に寒さが和らぎ、病みつきになりそうでした。

これからは、冬のフィールドに向かう度に、その存在の有りがたさをかみしめることになるでしょう。それは同時に、私自身が年齢を重ねていることを実感することでもありました。（やまだひさし）

Pich

～ピチャリ～

第107号

平成28年11月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp